

# 岡本キャンパス1年生 インターンシップ その2

## 飛騨高山高生 83カ所で職業体験

### 本紙高山支局でも2人実習

飛騨高山高校岡本キャンパス(高山市下岡本町)の生徒らが9、10の両日、飛騨地域の事業所などで職業体験実習をした。1年生約180人が、市役所や宿泊施設、福祉施設など83カ所でそれぞれの業務に触れ、働く人たちの心構えを学んだ。

中日新聞高山支局では、普通科の古田秋歩さん、ビジネス科の小出武瑠さんが参加。両日とも本紙記者とともに取材、撮影をして原稿執筆に挑んだほか、新聞の役割や記者の仕事などについて話を聞いた。

(鈴木智行)

書き手視点により記事の内容に違い

古田秋歩さん 取材では緊張してうまく質問を考えられなかったが、分らないことは聞くことが大切だと感じた。同じ取材をしても書く人の視点によって記事の内容が違ってくること、新聞によっても見出しの言葉や記事の扱いが違うことも分かった。

写真で多くの情報を伝える技術が必要

小出武瑠さん 写真を撮らせてもらったが、1枚で多くの情報を伝えるには人の表情だけでなく、場所なども分かるようにする技術が必要だと分かった。各紙を読んで自分のトップニュースを選んでみると古田さんと違って、個性が出るものだなと思った。



寺の住職を取材する小出さん(中)と古田さん(左)＝高山市天性寺町で